

令和4年度
厚生労働科学行政推進調査事業費
障害者政策総合研究事業
分担研究報告書

東アジア・東南アジア諸国における、視覚障害者の視覚リハビリテーションサービスへのアクセスの関連要因：Scoping Review Protocol

研究分担者 齋藤崇志 国立障害者リハビリテーションセンター
研究分担者 今橋久美子 国立障害者リハビリテーションセンター

研究要旨

医療、リハビリテーション、福祉等のサービス（医療福祉サービス）へのアクセスの関連要因（阻害要因、促進要因）を明らかにすることは、医療・福祉制度やサービス提供体制の改善や効率化を図り障害の有無によるサービスアクセスの不平等の解消に寄与すると期待できる。本稿では、日本を含む東アジア・東南アジア地域における視覚障害者の視覚リハビリテーションサービスへのアクセスの関連要因を明らかにするための系統的文献レビュー（Scoping review）の研究プロトコルを記述する。レビュー対象となる文献は、4つの電子データベースから抽出される英語または日本語で記された文献とする。東アジア・東南アジア地域の高齢者（50歳以上）を対象に視覚リハビリテーションサービスへのアクセスの関連要因を調査している研究論文をレビュー対象とする。令和5年度に文献検索と該当文献のレビューを行い、令和6年度以降にレビューの結果の整理を行う。

A. 研究目的

障害者が自らの健康や生活の質を維持向上させ、安定した社会生活を送るためには、医療やリハビリテーション、福祉等のサービス（以下、医療福祉サービス）へのアクセスが十分に保証されることが必要であり、これは障害者の基本的な権利の1つに位置づけられる(1)。しかしながら、医療福祉サービスへのアクセスは、障害者個人の身体的・心理的・経済的要因や障害者を取り巻く社会的要因など様々な要因で阻害される(2, 3)。そのため、諸外国では、医療・福祉制度やサービス提供体制の改善や効率化を図り

障害の有無によるサービスアクセスの不平等を解消するため、医療福祉サービスへのアクセスの関連要因（阻害要因、または、促進要因）を同定することを目的とした疫学調査や系統的レビューが行われている(4-8)。一方、日本の障害者を対象として医療福祉サービスへのアクセスやその関連要因に焦点を当てた調査報告は限られている(9-11)。これらの調査から得られる知見は、近年、日本で盛んに行われているサービス利用情報（レセプト情報）に関するビッグデータを用いた調査から得られる知見と相まって、医療福祉サービスの提供体制や関連制

度の改善・効率化を図り障害の有無によるサービスアクセスの不平等の解消に寄与すると期待できる。そのため、障害者の医療福祉サービスへのアクセスに着目した調査研究を進めていくことが必要と考える。

障害の種類や程度によって、個々の障害者が必要とする医療福祉サービスは異なる。そのため、障害者の医療福祉サービスへのアクセスに関する調査を行う場合、特定の障害像とサービス内容に焦点を当てた調査計画を立てる必要がある。そこで、本研究では、「視覚障害」に着目し、視覚障害者における「視覚リハビリテーション（以下、視覚リハ）」へのアクセスの関連要因に関する系統的文献レビューを企画する。視覚障害に着目した理由は、視覚障害が加齢と共にその有症割合が増加する障害であり(12, 13)、世界で最も高い高齢化率を有する国々の1つである日本にとって、視覚障害者に対する効率的かつ質の高いサービス提供体制の構築は重要な健康関連課題の1つであるためである。また、近年、視覚リハへの適切なアクセスを保証するためのスマートサイトと呼ばれる活動(14)が日本眼科医会により展開されており、視覚リハへのアクセスの関連要因を調査することは時勢に則したテーマであると考えた。

今回の系統的文献レビューは、日本の視覚障害者の視覚リハへのアクセスの関連要因に関する知見を得ることを目指している。そのためには、日本以外の諸外国における同様の知見と比較検討することで、日本の置かれている状況をより客観的に把握することが可能になると考えた。そこで、日本を含む東アジア・東南アジア諸国 (East and Southeast Asia; ESEA) に関する文献をレ

ビュー対象に含めることとした。同地域の国々は多様な経済社会システムと保健システムを有しており、日本との単純な比較は難しい。しかしながら同地域は、日本と同様に高齢化が社会問題となっているアジア圏の地域であり(15)、共通する社会問題を抱えている。そのため、日本との対比を行う外国として、東アジア・東南アジア地域は適した比較対象であると考えた。

本稿では、ESEA 諸国における視覚障害者の視覚リハサービスへのアクセスの関連要因に関する系統的文献レビューの研究計画(研究プロトコル)を記述する。

B. 研究方法

本研究における系統的文献レビューでは、既存の知見や情報を整理し、臨床活動や研究活動、政策決定等に役立てることを目的としたスコーピングレビュー (Scoping Review; SR) を実施する(16)。本SRの研究プロトコルの詳細については、既に他紙で公表されている(17)。そのため、本稿ではプロトコルの概要を記述する。

SRの概要を表1に示した。対象者は、日本を含むESEA諸国に住む50歳以上の者とする。表1に示した対象地域・対象者において、視覚リハへのアクセスの関連要因(阻害因子、促進因子)を検討している量的研究、質的研究、混合研究をレビューに取り込む対象文献とする。電子データベースを用いた文献検索を行う際の検索式の詳細は、既に公表されている他紙(17)を参照されたい。

独立した2名のレビューアーが対象文献のレビューを行う。第一段階では文献タイトルと抄録をレビューし、取り込み基準に

該当するか判断を行う。その後、第二段階として、取り込み基準に該当する文献の全文をレビューし、視覚リハへのアクセス（利用）の阻害要因と促進要因に関する情報を抽出し整理する。

（倫理面への配慮）

本研究は、既存の文献資料を対象としたSRであるため、研究実施に伴う研究倫理審査を受けていない。

C. 考察

本研究は、ESEA 諸国における、視覚障害者の視覚リハへのアクセスの関連要因に着目した初めてのSRである。この文献レビューを通して、ESEA 諸国、ならびに、日本の視覚障害者の視覚リハへのアクセスの関連要因が明らかになることが期待される。また、既存の調査研究の中で十分に検討されていない部分 (research gap) を明確にし、将来の研究で解決すべき課題を明確にすることができることと期待される。

今後のスケジュールとして、令和5年度を通して、電子データベースを用いた文献検索と該当文献のレビューを行っていく計画である。そして、令和6年度以降に、レビューの結果の整理と公開を行う計画である。

F. 研究発表

1. 論文発表

Saito T, Imahashi K. Barriers and enablers of utilization of low-vision rehabilitation services among over-50-year-old people in East and Southeast Asian regions: a scoping review protocol. JBI ev

idence synthesis. 2023 DOI: 10.11124/JBIES-22-00429.

2. 学会発表

なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

G. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

引用文献

1. World Health Organization. WHO global disability action plan 2014-2021. 2015. <https://www.who.int/publications/i/item/who-global-disability-action-plan-2014-2021> (2023.4.25 閲覧)

2. Levesque JF, Harris MF, Russell G. Patient-centred access to health care: conceptualising access at the interface of health systems and populations. *International journal for equity in health*. 2013;12:18.

3. Penchansky R, Thomas JW. The concept of access: definition and relationship to consumer satisfaction. *Med Care*. 1981;19(2):127-40.

4. Eide AH, Mannan H, Khogali M, van Rooy G, Swartz L, Munthali A, et al. Perceived

- Barriers for Accessing Health Services among Individuals with Disability in Four African Countries. *PLoS One*. 2015;10(5):e0125915.
5. Corscadden L, Levesque JF, Lewis V, Strumpf E, Breton M, Russell G. Factors associated with multiple barriers to access to primary care: an international analysis. *International journal for equity in health*. 2018;17(1):28.
 6. Bright T, Kuper H. A Systematic Review of Access to General Healthcare Services for People with Disabilities in Low and Middle Income Countries. *Int J Environ Res Public Health*. 2018;15(9).
 7. Bright T, Wallace S, Kuper H. A Systematic Review of Access to Rehabilitation for People with Disabilities in Low- and Middle-Income Countries. *Int J Environ Res Public Health*. 2018;15(10).
 8. Gibson J, O'Connor R. Access to health care for disabled people: A systematic review. *Social Care and Neurodisability*. 2010;1:21-31.
 9. 八巻知香子, 高山智子. 視覚障害者における健康診断・がん検診の受診と健康医療情報入手の現状: 点字図書館・視覚障害者団体登録者への調査結果. *日本公衆衛生雑誌*. 2017;64(5):270-9.
 10. 志賀利一, 村岡美幸. 障害者支援施設等における健康診断の実施状況について. *国立のぞみの園紀要*. 2016;9:1-13.
 11. 高橋英孝, 中館俊夫. 聴覚障害者を対象とした健康診断の受診に関する不便さ調査. *日本公衆衛生雑誌*. 2003;50(9):908-18.
 12. Morizane Y, Morimoto N, Fujiwara A, Kawasaki R, Yamashita H, Ogura Y, et al. Incidence and causes of visual impairment in Japan: the first nation-wide complete enumeration survey of newly certified visually impaired individuals. *Jpn J Ophthalmol*. 2019;63(1):26-33.
 13. 日本眼科医会研究班報告 2006～2008. 日本眼科医会研究班報告 2006～2008 : 日本における視覚障害の社会的コスト. *日本の眼科*. 2009;80(6):3-23.
 14. 平塚義宗, 佐渡一成. ロービジョンケアと地域連携の利用. *臨床眼科*. 2020;74(2):200-7.
 15. United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division. *World Population Ageing 2019*. 2020.
<https://www.un.org/en/development/desa/population/publications/pdf/ageing/WorldPopulationAgeing2019-Report.pdf> (2023.4.25 閲覧)
 16. Munn Z, Peters MDJ, Stern C, Tufanaru C, McArthur A, Aromataris E. Systematic review or scoping review? Guidance for authors when choosing between a systematic or scoping review approach. *BMC Med Res Methodol*. 2018;18(1):143.
 17. Saito T, Imahashi K. Barriers and enablers of utilization of low-vision rehabilitation services among over-50-year-old people in East and Southeast Asian regions: a scoping review protocol. *JB I evidence synthesis*. 2023.

表1 スコーピングレビュー 概要

対象地域	東アジア・東南アジア諸国 (中国、日本、韓国、モンゴル、台湾、ボルネオ、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、東ティモール、ベトナム)
対象者	高齢者 (50 歳以上)
視覚リハビリテーション	眼疾患や加齢に伴う視覚障害によって生じる障害を軽減するための介入と定義する。なお、薬物療法や外科治療は視覚リハビリテーションに含まれないものとする。 (例 自助具の処方、白杖の処方と使用練習、環境整備等)
使用言語	日本語または英語
文献検索に用いる電子データベース	MEDLINE(Pubmed)、Web of Science、EBSCO(Academic Search Ultimate)、医学中央雑誌